



山地酪農のパイオニア —— 群馬県神津牧場を視察

八丈島では、今年5月に牛乳の生産が中断しました。しかし、酪農の灯を消してはならないと、ジャージー種の放牧を基本とする山地酪農が始まったところです。そこで今回の行政視察では、標高900~1300mの高原にある神津牧場(群馬県甘楽郡下仁田町)を、山が紅葉に染まる10月31日に議員4人で訪ねることにしました。



なぜジャージー牛なのか この牧場は、神津邦太郎が明治20年にジャージー種の「洋式山岳牧場」を開き、バター製造を開始したことに始まります。ジャージー種は、ホルスタイン種に比べやや小さく、運動性に富み飼育しやすく、高い脂肪分と無脂固形分の多い牛乳を出す牛として知られています。ジャージー種の改良と増殖は、当時としては先駆的な取り組みでした。

山地酪農とは 今、日本で飼育されている乳牛のほとんどが牛舎で繋がれて、または狭い空間で飼育されています。乳量を増やすために体躯の大型化へ改良も進みました。しかし、牛は、家畜ではあっても自由に動き回り自由に草を食べて生きるのが望ましい姿です。神津邦太郎の「草と牛は一体であり、草を乳に換える」精神がここに生きています。

現在は公益財団法人となり、約400haの敷地のうち100haを牧野(内20haは採草地)とし、30牧区に240頭が放牧されています。昼夜放牧は5~11月、冬期は乾草(ほしくさ)とサイレージ(飼料作物をサイロなどで発酵させたもの)を自由に採食させています。人工授精ではあっても出産は自然分娩で、牧区内で人手を借りず自力で出産しているそうです。

加工・販売までの一貫経営 牧場内で、搾乳、製造、加工のすべてと乳製品の販売、レストランや売店経営まで行なっています。製品は生乳、飲むヨーグルト、アイスクリーム、ソフトクリーム、バター、数種類のチーズなど多様です。経営は「ぎりぎりです」とのことでしたが、年間1億4~5千万円の売り上げを維持しているそうです。

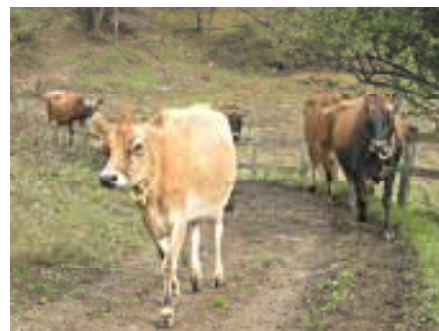
放牧肉の利用 ジャージー肉の利用も積極的に行っていて、と殺は近くの長野県で行い、精肉にして卸業者に出荷し、そこから東京のレストランなどに販売しています(一般販売はしていない)。土日は牧場でも食べられます。去勢牛は2年育成したのち濃厚飼料を与えて出荷。老廃牛肉はレトルトのカレーやシチュー用に、さらに脱脂乳で豚を飼育し、ハムやソーセージに加工します。



観光牧場・体験研修の場としても 牧場で私たちが最初に迎えてくれたのはヤギでした。ウサギ、馬(ポニー)、豚も飼われていました。家畜とのふれあい体験、牧場体験、酪農教育なども行っていて、敷地内に簡易的な宿泊施設もありました。

前ページより続く

また、1日2回の搾乳時に牧草地から下りてくる約100頭の群れは、観光の目玉になっていて、間近でみると迫力満点でした。広大な土地にすべての施設がそろっていること、観光牧場としても機能していること、無駄のない経営戦略を展開していることが成功の秘訣と納得しました。八丈島でもこうした酪農が根付くように、行政視察の成果を活かしていきたいと思います。



国体・軟式高校野球に盛り上がる ――― 町を挙げての取り組みで

スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会)の軟式高校野球競技会が9月29日～10月2日までの4日間、南原野球場で行われ、鹿児島工業高校が初優勝しました。北海道から九州までの出場10校は全国大会の上位校だけあって、レベルの高い、引き締まった試合を見せてくれました。また、プレーボールからゲームセットまで、選手のきびきびした動きと礼儀正しさが印象に残りました。一般町民を始め、小・中・高校生のフェアな応援、町役場を挙げてのきめ細やかな運営と、高校生や各種団体などのボランティアの力で大会を盛り上げることができたことを大いに喜ぶたいと思います。

この大会が成功裏に終わったことで、南原スポーツ公園のイベントの舞台としての評価が高まりました。今後、さまざまな大会に利用されるよう、町を挙げて誘致に力を入れることも重要だと思いました。



新しいホールに響いた中学生の歌声

大賀郷中学校の音楽会が10月27日(日)、町のホール「おじゃれ」で開かれました。大きな舞台に、生徒数が少ない寂しさはあったものの、3学年とも懸命に歌っていました。これまでの体育館の発表会とは異なる緊張感があったと思いますが、こうした舞台に立つことで達成感を味わい、また新たな目標が生まれるかもしれません。聞く側も、きちんとした身なりでマナーを守って音楽を楽しむ習慣が身につくきっかけになると思います。11月9日には富士中学校もこの新しいホールで合唱コンクールを行いました。

ホールは、町民のもので、立派なホールも、みんなが使ってこそ価値があるので、より町民が使いやすいよう働きかけて、「文化のかおり高い町」に近づくよう努力していきたいと思います。

・・・・・・・・ 介護保険運営協議会の委員になる ・・・・・・・・

10月に私は介護保険運営協議会の委員になりました。この協議会は、ほかに「地域包括支援センター運営協議会」「地域密着型サービス運営協議会」を同時に行う会議で、任期は2年です。

介護保険の事業計画をつくったり、事業の運営その他の事項を審議するのが仕事です。いわば、医療以外の町の高齢者福祉に関するすべてがここで決められると言っていいと思います。委員は、保健所副所長、養和会・社会福祉協議会の代表者、島内2つの介護事業所、町民代表など13名と町の福祉健康課職員で構成されています。介護保険は高齢化が進む町にとって重要な事業です。介護保険事業が、被保険者にとってより利用しやすいものとなるよう、積極的に関わっていきたく思います。



2013年9月議会 一般質問



1. 山下町政の成果と今後の課題について検証する

山下町長が誕生して2年。「町政一新」の基本理念は、どう実現されたか。

- (1) これまでの成果はなにか、実現できていないものはなにか
- (2) 島がかかえる課題について、今後2年でどのように実現させるのか

企画財政課長 これまでの成果としては、庁舎建設、汚泥再生処理センター、富士野球場の整備、人材育成、全離島野球大会、未満児待機対策、徴税専門員の起用や徴税対策の強化、国保会計の計画的赤字補てんなどがある。実現できていないものは、防災対策、合併処理浄化槽の普及、観光客の誘致、第一次産業の後継者対策など。また、今後の課題については、ハード面では事業計画にもとづいて、ソフトでは住民への説明会などを通じて計画の実現を図りたい。

再質問 町があげた実績は評価したい。職員の人材育成に力をいれているのは理解できるが、女性職員の登用については環境改善など、まだ課題がある。一方、町長の「町政一新」という観点からは、まず、住民主役の町づくりになっていない点があげられる。また、養護老人ホームについては、まったく進展がみられない。私は、養護は原則なくす方向で計画すべきと考えているが、養護を建て替えるかどうかの判断は、高齢化社会をどう描くかという町の決意にかかっているので決断をすべきだ。再生可能エネルギー開発も足踏み状態にあり、東京電力から買い上げた地熱館も、観光シーズン前に開館できなかったことは残念だ。さらに観光協会に対する対応は、後手に回ることなく前向きな観光行政を進めるべきだ。**町長の決意をうかがいたい。**

町長 養護については、きちんとした計画を立ててから取り組む。地熱開発、三根公民館の建て替えは実現させる。酪農も基本的には支援していきたい。

2. 八丈島産の牛乳の生産に支援を

5月中旬より島の牛乳生産が止まり、学校給食の牛乳はL牛乳になり、ふれあい牧場の牛乳自販機販売はなくなった。残念に思っている住民や観光客は多い。島の産業、学校給食の食育、観光の観点から酪農の復活は必要と考える。

- (1) 町は、これまでいくつか支援をしてきた。これに加えて、施設整備などのハード面の支援は可能か。また、町が力を入れている担い手育成研修制度の枠を、酪農を含めた農業全体に広げ、支援を強化することはできないか。

町 国や都の現行制度のもとでは、ハード面の支援は厳しい。

- (2) 町は、学校給食の牛乳の安定供給を確保するために、生産者と定期的に話し合いをもつなどの支援をすべきだと思うが、いかがか。

町 定期的な話し合いをする考えはある。今年度立ち上げたばかりの「酪農関係対策会議」を6月に1回実施している。何が足りないのかが分かれば支援ができる。資金などの経営相談や技術支援は考えられる。

9月議会質疑 私の発言から

- 町政60周年記念行事について、イベントの内容を一般公募し8月31日を締め切りとしているが、応募期間が短い。延長できないか。また、どの課でどのように審査されるのか、その過程の透明性を確保してほしい。

町——締め切りは延長できないが、9月下旬でも応募がありそれは採用している。まとめて議会にも公表したが、今後も相談しながら内容を絞っていきたい。

- 町長はこの夏、ドイツやスイスを視察してきたが、その報告はどのようにするのか。広報にものせてほしい。

町——視察に参加した町村長はみな報告することになっていて、10月の広報に載せることになっている。再生可能エネルギーについての取り組みは参考になった。

- 末吉小学校跡地の利用状況はどうなっているか。

町——現在試験的利用を行なっていて、8月には武蔵大、日本獣医生命大など4グループが利用し、9月には武蔵大が利用することになっている。末吉地域の方々との交流については、演奏会やバーベキューなどのイベントを一緒にして交流を深めている。

- 乙千代ヶ浜のプール運営は檜立自治会に委託しているが、今夏ものべ3500人も利用されているので、町もポスターとかネット配信などで宣伝すべきではないか。

町——乙千代ヶ浜は観光施設と位置付けているが、八丈の観光資源の第一は海であり、プールはそれを補足するものと考えているので、その考えはない。今後も町は支援していく。

- 町の介護状況のなかで、ショートステイが利用しにくいとの声がある。もっと利用しやすい仕組みにできないか。

町——ケアプランに基づき、1か月前に予約する制度だが、空きがあれば利用できるようにしている。

- 八丈病院の院外処方システム導入はいつからか。費用はどれくらいかかるか。

町——来年度開始をめざし、来年の1月までにシステムの更新をする予定。システムは9450万円だが実際には7800万円になる。そのうち都の補助金が4000万円つく予定だ。

編集後記

10月15・16日に伊豆諸島を襲った台風26号は甚大な被害をもたらしました。大島では記録的な豪雨により土石流が発生し、35人が亡くなり、4人がまだ行方不明です(11月15日現在)。被害に遭われた方々に心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げます。

伊豆諸島では台風・噴火・地震・津波などの災害はたびたび経験してきましたが、土石流はまったく想定外で、それだけに被害が大きくなったものと思われま

強風が吹き荒れた八丈島では建物や海岸施設の損壊のほか、農業被害は1億5千万円に及びました。今後は私たちも、あらゆる自然災害に対応できるよう、万全の態勢を整えておかなければと、あらためて思いました。



さちこのニューズレター
第四三号 / 二〇一三年十一月
編集発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子